

別記様式(第4条関係)

会議録

|  |                                 |
|--|---------------------------------|
| 会議の名称  | 第6回加東市小中一貫教育研究会                 |
| 開催日時   | 平成27年12月16日(水) 16時30分から17時37分まで |
| 開催場所   | 加東市役所 2階 201会議室                 |
| <p>議長の氏名 (委員長 浅野良一)</p> <p>出席及び欠席委員の氏名</p> <p><b>【出席委員】</b> 11人</p> <p>浅野良一委員 土肥貴雄委員 木村裕司委員 小林美穂委員 上月浩忠委員<br/>岸本吉博委員 黒崎泰則委員 眞海秀成委員 佐々木正利委員 小林喜代治委員<br/>石田和伸委員</p> <p><b>【欠席委員】</b> 2人</p> <p>大野裕己委員 尾崎高弘委員</p> |                                 |
| <p>説明のため出席した者の職氏名</p> <p><b>【オブザーバー】</b></p> <p>大島巧男教育委員長 藤本洋二教育委員長職務代行者 神崎芳美教育委員<br/>浅川るり教育委員</p>   |                                 |
| <p>出席した事務局職員の氏名及びその職名</p> <p>教育長 藤本謙造<br/>教育部長 堀内千稔<br/>教育総務課 課長 大橋博英<br/>同 副課長 柴崎俊之<br/>同 主幹 山本幸平<br/>学校教育課 課長 登光広<br/>同 副課長 平川真也<br/>同 主幹 藤原良二</p>   |                                 |
| <p>議題、会議結果、会議の経過及び資料名</p> <p><b>【議題】</b></p> <p>(1) 小中一貫教育推進協議会の状況報告について<br/>(2) 最終報告について</p>  |                                 |

## 【会議結果】

- (1) 資料1に基づき、事務局から説明を行いました。
- (2) 資料2に基づき、審議しました。

## 【会議の経過】

### 1 開会

### 2 報告

#### (1) 小中一貫教育推進協議会の状況について

〔事務局説明（資料①）〕

(委員長)

今、事務局から協議会の状況報告がありましたが、補足説明を少ししていただけますか。

(委員)

それでは、社地域の協議会の内容について補足といたしますか、私が感じたところを報告させていただきます。

当初、社地域の中でも地区によって違うとは思いますが、やはりいろいろな不安を感じておられる方がいらっしゃるのではないかと、少し懸念しておりました。案の定、いろいろと不安を述べられた委員がいらっしゃいました。そのときに、私、事務局に説明会に是非早急に出向いて行って説明をしてほしいということをお願いしました。説明後の結果としては、御理解はいただけたということでしたが、そういう不安はいろいろな情報を開示することによって、皆さんの認識が統一してきて、それで、これだったらいけるというような自信にやっとながっていくのではないかなという思いがして、案の定、そういう状況になってきているということで、当初よりも大分認識が統一化してきたといえますか、まとまってきたという思いがしております。

今、少し気になっておりますのは、4月のアンケートで「わからない」という方が約3割近くいらっしゃったかと思いますが、そういう方が今どういう変化をしているのかなというような部分です。もちろん、アンケートに答えている方というのは委員だけではなくて、一般の方も全てを対象にしておりますので、委員の方は理解できて一般の方がどれだけ理解できているかというのも気になります。これは、社だけでなく、全市的にアンケートをとっていただいて、そこで協議会として不足している部分があったら、また、いろいろと説明をしたりするというのをやっていく必要があるというようなことを感じております。

ですから、先ほどの繰り返しになりますが、大分理解が得られてきたということで、そういう意味では安堵をしている状況でございます。

(委員)

滝野地域は、先ほど委員がおっしゃったように、1回目の地区の協議会のときは非常に不安を持っていらっしゃる方、特に未就学児の保育園の若い世代のお父さん方が非常に不安がっていらっしゃいました。本当に小中一貫教育をする必要があるのか、また、実際に今の保育園児たちが当然当事者になるわけですから、本当に不安だらけで心細いというか、不安を口にされておりました。ただ、2回目に京都の小中一貫校の視察をしていただきまして、未就学児の保護者の方も来ていただいたのですが、実際に生の声を聞いて、学校の1年生から9年生までの生活を見たことで、かなり不安は解消され、小中一貫の不安というのは大分払拭されて、なくなりまし

たというのは3回目の機会のときにおっしゃっておりました。

また、全体的な意見としては、先ほども話が出ていましたが、滝野地区だけ開校する場所が全く白紙の状態でも出ておらず、また、このままの方向でいくと一応順番的には平成40年という最後のほうの順番になるのではないかということで、実際正直なところ、かなり先の話なので、どうしても滝野地区としては、少し報告書にも書いてありましたが、具体的に開校場所を決めていただかないことにはその具体的な話、今後の行程表にあるような組織にしても、場所も決まってないので、なかなかその具体的な話がしづらいのではないかというのは、皆さん、共通した意見でした。それと、例えば1校目の開校年度が平成33年度に開校ということであれば、遡って5年前を目途にすると、もう来年度、平成28年度から具体的な組織ができてくる。ただ、滝野の場合、決定ではないですが、例えば平成40年とすると、この間の空白が7年間くらいあり、そうすると各組織自体を立ち上げるのもまだまだ先の話です。そういうことで、やはり今後の課題としては、是非もっと具体的に場所も決めていただいて、開校年もできればもう少し前倒しにしていってくださるような方向に持って行ってくださいということで3回目を終了し、今回の資料にあるように、次回4回目に具体的に市のほうからある程度シミュレーションした案を出していただきたいというところで前回終了しております。

(委員)

東条の場合は、やはり一番の違いというのは東と西の温度差です。東のほうは今現在順調にいており、西小のほうは生徒数も減少してしまっていて、そんな中で授業をし、子供たちもライバルとか競争とか、そういうのが全然なくなってきて縦割りの授業、縦割りの行事しかできないとか、クラス単位でそれができないとか、そういう不安感が若いお母さん方には本当にせっぱ詰まった感じで受け取れます。

その中で、全体としては小中一貫校をつくるというのには、そんな反対はないと思います。そういう感じにとれます。しかし、今言いましたような東西2つではないですが、その地域によっても温度差が少しあるみたいで、そこをどうやっていくかが1つの問題ではないかと思いますが、それは話によってできると思います。

そして、もう一つは、やはり場所です。東条というところは川があって、ずっと長いので、広い面積がドンとあるということがまず少ないということと、広いところでも田んぼがたくさんございまして、その田んぼを潰してやらないといけません。そういうことになりますと、加東市としても東条の特産物である山田錦とか、そういうもの関連からしますと、少し矛盾しておるのではないかというようなことがあります。

そして、また、協議会のメンバーが全部で10人ちょっとですか、少ないです。そのような中で意見として出ているのは、もう少しそのメンバーを増やしていただいて、いろいろな方の意見をもっと取り入れていかなければいけないということが多く聞こえたように思います。ですから、年代層によつての差というのは話し合いによって解決していくと思いますが、場所についてのいろいろな御意見がたくさん出ていますので、そこを解決していかないと早急にというふうにはいかないと思います。

そして、保護者の方たち、西の若い年代層は、とにかく早くやってほしいと。また、東のほうでも学校へ行っておられる家庭の保護者の方たちは一緒になってやるほうが望ましいのではないかという声が聞こえております。以上でございます。

(委員長)

定期的なアンケートというのが委員から出ておりました。それと、あとはやはり時期と場所というのは、どうしてもあります。確かに、私も常識的に考えて、平成40年というのはとても先ですよ。そのあたりについて、少し補足はありません

でしょうか。定期的な調査について、それから時期について、それから場所について、いかがでしょう。

(事務局)

場所につきましては、9月の議会、あるいは研究会からの報告等もございましたので、それらを踏まえて御承知のように、東条地域ではコスミックホール周辺が望ましいと、社地域については社中学校の周辺ということが出ておりました、市も教育委員会もそれが望ましいというふうなことで結論的には出ささせていただいております。滝野地域につきましては、先ほど意見が出ておりましたように、9月の時点では、まだ今後検討というような形になっておりましたが、前回の第3回の協議会で現滝野中学校の周辺でシミュレーションというような話がございましたので、そういう方向では検討していくべきなのかなというふうには事務局としては考えてございます。

時期的なものにつきましては、先ほど委員長からも平成40年があまりにも先というお話もございました。実際、今から7年、8年後というのは、第1回目の準備委員会が発足してからまだ7年、8年後というようなことで、加東市の教育行政として、そこまで先にするべきかどうかというのも非常に大きな課題だと思いますので、それは極力詰めていくような形で検討するべきではないかということも感じてございます。

続きまして、定期的なアンケートというお話で、推進協議会の中でも出ているのですが、例えば区長会であるとか、PTAでは是非視察に行きたいと、行ったところが非常によかったということで、自分たちで行ってみたいというような声が上がってきております。来年度、教育委員会にしても教員の視察の予算をある程度とったりはしておりますので、私どもがいくら口で言ってもというところがあります。当然そういった視察を踏まえて御理解をいただいた上で、そうしたらやろうというようなことでいきたいと思っております。そのアンケート等についても、例えば視察が終わってからもう一度アンケートとるとか、各PTAさんとも相談をして前回のアンケートもPTAでとっていただいておりますので、連合PTAも含めて検討なり、御依頼していこうと思っております。

時期については、先ほど言いましたように見て理解して、それからアンケートをとるべきであると思っておりますので、そういったところで良いタイミングを見計らいたいと思っております。当然アンケートはとるべきだと考えております。

(委員長)

次に、教員の皆さんからはどういうふうな感想、あるいは感じだったでしょうか。

(委員)

東条地域で参加させてもらいました。第1回目は参加できなかったのですが、第1回目のときは、なぜ小中一貫をするのかというような話が結構あったように聞いています。でも、視察が終わって、やはり少し意見は軟化して、良い学校を見てこられたというような発言があったようには思います。

ただ、第3回目を参加させてもらって、住民感情として、なぜ東条が一番なのかとか、東条はお試しかというような意見もありました。ほかの2地域よりも先にして、良い部分も悪い部分もあると思っておりますが、それを受ける、他地域がより良いものということで、なぜ東条が一番かと。第3回目の最終の部分では、そこはこれからどこの地域が第1番目なのかを決めていく状況で、東条が一番であるという決定ではないですという話の中で、今後決めていきたいと思いますということで、実際は保護者の方が帰ってどういう言い方をされていくか。これから準備委員会を立ち上げるのは、3地域のうちでどこになるかわからないですよという部分は持って帰られていると思います。

ただ、これまでの流れとしても用地買収のことで、東条はコスミックという名前があがっていますよね。社中学校については、クラス数が多い学校を第1番目に小中一貫校として進めていくかどうか、地域の噂としてもそんな大きい学校から始めずに、小さいところから始めるというところからいって、滝野は用地の買収もないという話もある。ということは、地域としても東条が1番というのは実際想像できるところで、そのあたりの住民感情的なところ、なぜ東条が一番なのかというのがすごくあったという内容かなというふうに思いました。

(委員長)

一番が嫌という感じですね。ただ、私は、せっかくなら一番先にしてもらったほうが良いような気もしますが。

(委員)

そのあたりは、滝野や社も1番にしますと言っていないのでしょうか。どこも1番にしますと言っていない状況で、勝手に東条からという話がどこからか進んでいっているという不安感がすごくあって、滝野が手を挙げられたときに東条地域の方がどうされるか。やはり東条からという意見が出るのか、滝野がそこまで盛り上がっているなら滝野でやっつけようかというような話になるのか。ただ、用地買収の件で、もう明らかに東条の名前があがっているという部分で言うと、地域の方はやはり東条が先と加東市は考えているというふうに思うのは仕方がないだろうと思います。

(委員)

滝野地域は、先ほど委員が言われたように、最初の第1回目は不安の声が聞こえてきたのですが、先進校の視察を終えて、あの学校で勉強させてみたいというふうな御意見が多く出て、小中一貫に対して賛成の意見が増えているなというふうに思いました。

先ほど東条は1番ではないかということだったのですが、滝野については最後のほうで、しかも平成40年というふうな話だったので、あまりにも差があり過ぎて、もう少し早い時期にしてもらえないかというふうな声が出ています。場所も決まっていけないので、なかなか詳しく詰めていないということもあって、通学のことにしてもバス通学をさせるなら場所を決めていないと話も進めていけないし、その大分先のことを今から話し合うというのもなかなか熱が入っていかないということで、時期を少し早めてもらえたらというふうな意見が出ていました。

だからといって、1番ということは滝野地域的には、まだまだ先というふうな意見のほうが地域住民自体多いと思うので、そのあたりで早く時期と場所を決めていくということが大事かというふうに思っています。

(委員)

社地域です。

私は視察に行っておりませんでしたので、どういう話になっているのか注目をしていたところ、視察をされてこられて、他の地域と同じように皆さん、先進校の様子を見て小中一貫教育の理念というか、すべてを見てこられたということから、そこに書いておられますが、開校を早く進めていきたいという思いが少し出ていたのかなど。逆行するようなことを言いますが、東条とは逆に、社が一番でという意見が出ております。私自身はいろんなことも少し知っている関係で、皆で一斉にしましよとなったらいろいろ困ることが出てくると思うのでどうかと思いますが。もう少し十分に話をしないと、そんな簡単にできるのかと思いながら、予算もありますし、教職員の配当数も同じようにやりましようかといったら困ります。そこは後でスケジュール表もあるのですが、どこが一番みたいな話になってきたら、本来一番良いものにするために何をしていくかということが大事なのに、今日、順番を争うようなことになるのは少し違うかなという感想を持ちました。

(委員長)

順番ということですが、第4回はそういった意向を聴取するというところでよろしいか。少しご説明いただけますか。

(事務局)

第3回での内容を受けて第4回目につきましては、そういった地域の御意向を確認したいなというふうには思っております。最終的に場所、整備順序等を決めていくのは市であり、教育委員会であるというふうには思っておりますが、やはり地域の皆さんの御意見も非常に尊重すべきものでございますので、次の会議でそういった意向は確認させていただきたいというふうには思っております。

(委員)

委員がおっしゃったとおりで、やはり1回目というのは不安ばかりが出て、また一からやり直しという感じだったのですが、社地域の推進協議会もこの研究会と一緒に、やっぱり1回見に行ったら百聞は一見にしかずという話と一緒に、すばらしいということでした。

ですから、先ほど委員がおっしゃった話は、私たちはわからないことですが、良い方向に流れていくのではないかと考えています。

(委員)

先進校を見に行きますと、やっぱりその一体型の校舎の良さといいますか、それがものすごく目につきますので、特に保護者はそういういい施設で子どもたちを学ばせてやりたいという、そういう思いが強くなったように思います。

滝野地域の場合、現時点ではまだ場所も、それからどういう形態かというのも示されていない中で、早くしてほしいという声も上がっていますが、私個人は滝野が先頭を切って行くというのはどうかと思います。

(委員)

各委員が言われているように、情報がやはり行っていないということを感じます。私たちは、この研究会の委員もしているということで知っている中で話をしているのですが、本当に事実がわかっていない状況の中でいろいろ地域の中で相当議論されており、市民は混乱している。だから、情報はどんどん出していかないといけない。ただし、事務局がどのように出すのかというのを相当苦慮されているのもよくわかります。ただ、そのあたりがポイントなのかと。

委員が言われたように、やはり東条地域で聞いているのは場所の問題。だから、できないと思っているんですね。想定ができない。だから、その辺で本当に中学校の下でできないだろうと、どのようにして、あと5年先にするのかと、そのような話もいろいろ聞くわけで、どういうことをやるのかという情報を、まずは出していかないといけないのかなというのを感じました。

あとは、順番の議論のところでは地域の意向を聞かれて、その意向は尊重すべきものという話がありましたが、その順番の議論をなぜ地域がしなければいけないのかは多分理解できていない。順番は、東条地域、社地域、滝野地域と出ているのに、なぜそれを議論しなければいけないのか云々。そのあたりのことがなかなかわかっていないから、順番の議論になったとしても、それをまた取り違えて議論すると今も委員さんから出ていましたが、混乱を招くのではないかとというふうに感じます。

(委員)

私も社のほうと一緒に協議に参加させていただきました。内容については委員から出ましたが、それ以外で特に感じていることを少しだけお話しさせていただきたいと思います。

要するに、小中一貫校の良い面を見てきて、やはり良いものは早くしたいという意見と同時に、委員の方についてはそういう理解が深まっています。ただ、委員と

して考えるのは、一般の方がどういうふうに考えられているかというところまでは考えていかないといけない。そこで、委員がおっしゃいましたが、いろいろその良いところ、メリットの部分の情報発信、情報開示をいかに皆さんにしていくかということが大事というのがあります。それで、どうしようかという話をしない限り、いろいろな臆測で話をしてしまいますと少し話がまとまらないのかなと思ったりもしますので、このような理由で、このようにすれば、このようになりそうだとか、場所とか時期についてもいろいろな条件がありますよね。それは同時にしたら良いのですが、いろいろな問題があります。その問題が何かというあたりの整理をしていく必要があり、その上で、どの順番でするとか、全体が見えた上で皆さんで話をする必要があると思ったりしております。

(委員長)

皆さんの御意見を聞いていますと、小中一貫教育そのものについては理解が深まっていますが、それをどう立ち上げるかということについては事務局のほうで考えていかなければいけない。そこについては、まだまだすり合わせというか、その辺が課題という感じがします。ただ、会議でこういった動きが出てくれば、小中一貫自体の研究についてはある一定のものがあるかなというふうに感じました。

あと、いろいろそういう実現に向けての懸案が幾つかありますが、これは誠実にしながら進んでいくしかないかなというふうに思います。

それでは、こういった流れを踏まえて、この研究会の最終のゴールは、最終報告があります。最終報告としてどういうところを出すかというその骨子(案)を事務局で取り上げていただいていますので、お願いします。

### 3 協議

#### (1) 最終報告について

[事務局説明(資料②)]

(委員長)

骨子(案)についていかがですか。何か御質問等々ございますか。

あと2回ということで集まって、最終は、2月の末ごろですね。

よろしゅうございますか。

[異議なし]

それでは、また、4回目の協議会がございまして、その後お会いしながらしたいと思います。

### 4 事務連絡

### 5 閉会

#### 【資料名】

資料① 小中一貫教育推進協議会状況報告

資料② 小中一貫教育研究会最終報告骨子(案)

平成28年2月16日